

2009年 電炉鋼材フォーラム

《全体プログラム》

主催 普通鋼電炉工業会

1. 開催日時・場所

開催日	場所	開催時間：午後1時20分～5時00分	参加費：無料
2009年10月13日(火)	東京	経団連会館 2階経団連ホール	東京都千代田区大手町1-3-2 Tel 03-6741-0222
2009年10月28日(水)	名古屋	昭和ビル 9階ホール	名古屋市中区栄4-3-26 Tel 052-261-7751
2009年11月10日(火)	大阪	大阪科学技術センター 8階大ホール	大阪市西区靱本町1-8-4 Tel 06-6443-5324

2. 会場プログラム

・各社製品パノフレット展示・配布 各会場

申込先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

＜普電工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>＞

13：20-13：30

開会挨拶

13：30-14：10 発表40分 --- 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況－電炉業の紹介ビデオ「DENRO」－

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会

我が国の粗鋼生産量の約1/4を占める電炉鋼材は鉄スクラップを再生して造られる。鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板の製品に加工され、土木、建築関係に使用されている。電気アークによる超高温溶解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に生まれ変わるわけである。本報ではその生産の概要と、その特徴を紹介する。今回は特にその製造の様子をビデオで作成した。工場見学をするつもりで、電炉鋼材製品についてより理解を深めて頂きたい。

14：10-14：45 講演35分 --- 質問時間を含む

講演

たたら 日本古来の製鉄

JFE21世紀財団 事務局長 妹尾 義和(東京) 殿

日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会 鉄の歴史・その技術と文化・フォーラム

天辰 正義(元JFEテクリサーチ(株)(名古屋・大阪) 殿

JFE21世紀財団は、「たたら 日本古来の製鉄」の書籍版を2004年に、DVD版(日英ハイブリッド)を2009年3月に発行した。江戸時代には、たたら法により日さきのおおつあがわむらやましてつあらいとりのす本全体で年間約1万トンの鉄を生産したといわれている。絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」(東大工学部所蔵、江戸末期長州藩の狩野派絵師作)に基づき、たたら製鉄の重要工程を抽出し、砂鉄採取(鉄穴流し)、木炭製造(大炭焼き・小炭焼き)、たたら製鉄作業(たたら炉作り・ふいご・たたら炉操業・大鍛冶・鉄鋼製品の加工)、及びたたら製鉄に使われた道具・たたら鉄から作られた道具等について紹介し、たたら製鉄の特徴と和鋼が出来るその品質のポイントを述べる。

14：45-14：50 休憩

14：50-15：50 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題について

清水建設(株) 生産技術本部 品質管理部 グループ長(工学博士) 角陸 純一 殿

近年、鉄筋コンクリート構造物が高層化、巨大化するともに使用される鉄筋も高強度かつ太径になりつつある。また、配筋設計もより合理的な設計が行われるため、複雑になりつつあり、鉄筋工事がますます難しいものとなりつつある。このような鉄筋工事の現状について、ゼネコンの配筋検査の現状、各種鉄筋継手の現状、鉄筋製品の品質管理の現状、中国等東南アジアの鉄筋工事の現状を紹介しながら、最後に電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題を述べる。

15：50-16：00 休憩

16：00-17：00 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

鉄スクラップ需給の現状と今後の展望

(株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

2008年の価格乱高下は、鉄スクラップが地産地消商品から製鋼原料として、世界商品へグローバル化した証だった。今や価格動向は国内需給のみならず世界の鉄鋼需要の動き、特に日本の場合はアジア近隣の動きと無関係でなくなっている。

そうした中、年間3,500万t前後発生する国内市中スクラップの中長期的な展望は如何なる方向に向かうのだろうか。周辺国の自給化の動きはどうか。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後を展望する。

2009年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

東京会場 プログラム

開催日	場所	開催時間：午後1時20分～5時00分	参加費：無料
2009年10月13日(火)	東京 経団連会館 2階 経団連ホール	東京都千代田区大手町1-3-2	Tel 03-6741-0222

・各社製品パノラマ展示・配布 各会場

申込先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

〈普電工 ホームページ <http://www.fudenkou.jp>〉

13:20-13:30

開会挨拶

普通鋼電炉工業会 会長（JFE 条鋼㈱ 代表取締役社長） 日野 光興

13:30-14:10 発表40分 --- 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況－電炉業の紹介ビデオ「DENRO」－

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 合同製鐵㈱ 技術総括部 グループリーダー 田口 聡二

我が国の粗鋼生産量の約1/4を占める電炉鋼材は鉄スクラップを再生して造られる。鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板の製品に加工され、土木、建築関係に使用されている。電気アークによる超高温熔解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に生まれ変わるわけである。本報ではその生産の概要と、その特徴を紹介する。今回は特にその製造の様子をビデオで作成した。工場見学をするつもりで、電炉鋼材製品についてより理解を深めて頂きたい。

14:10-14:45 講演35分 --- 質問時間を含む

講演

たたら 日本古来の製鉄

JFE 21世紀財団 事務局長 妹尾 義和 殿

JFE21世紀財団は、「たたら 日本古来の製鉄」の書籍版を2004年に、DVD版（日英ハイブリッド）を2009年3月に発行した。江戸時代には、たたら法により日さきのおおつあがわむらやましてつらいとりのす本全体で年間約1万トンの鉄を生産したといわれている。絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」（東大工学部所蔵、江戸末期長州藩の狩野派絵師作）に基づき、たたら製鉄の重要工程を抽出し、砂鉄採取（鉄穴流し）、木炭製造（大炭焼き・小炭焼き）、たたら製鉄作業（たたら炉作り・ふいご・たたら炉操業・大鍛冶・鉄鋼製品の加工）、及びたたら製鉄に使われた道具・たたら鉄から作られた道具等について紹介し、たたら製鉄の特徴と和鋼が出来るその品質のポイントを述べる。

14:45-14:50 休憩

14:50-15:50 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題について

清水建設㈱ 生産技術本部 品質管理部 グループ長（工学博士） 角陸 純一 殿

近年、鉄筋コンクリート構造物が高層化、巨大化するとともに使用される鉄筋も高強度かつ太径になりつつある。また、配筋設計もより合理的な設計が行われるため、複雑になりつつあり、鉄筋工事がますます難しいものとなりつつある。このような鉄筋工事の現状について、ゼネコンの配筋検査の現状、各種鉄筋継手の現状、鉄筋製品の品質管理の現状、中国等東南アジアの鉄筋工事の現状を紹介しながら、最後に電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題を述べる。

15:50-16:00 休憩

16:00-17:00 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

鉄スクラップ需給の現状と今後の展望

㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

2008年の価格乱高下は、鉄スクラップが地産地消商品から製鋼原料として、世界商品へグローバル化した証だった。今や価格動向は国内需給のみならず世界の鉄鋼需要の動き、特に日本の場合はアジア近隣の動きと無関係でなくなっている。

そうした中、年間3,500万t前後発生する国内市中スクラップの中長期的な展望は如何なる方向に向かうのだろうか。周辺国の自給化の動きはどうか。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後の展望する。

2009年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

名古屋会場 プログラム

開催日	名古屋	場所	開催時間：午後1時20分～5時00分	参加費：無料
2009年10月28日(水)	名古屋	昭和ビル 9階 ホール	名古屋市中区栄 4-3-26	Tel 052-261-7751

・各社製品パノラマ展示・配布 各会場

申込先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

〈普通鋼電炉ホームページ <http://www.fudenkou.jp>〉

13：20-13：30

開会挨拶

中部鋼鉄㈱ 代表取締役社長 成田 健一郎

13：30-14：10 発表40分 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況－電炉業の紹介ビデオ「DENRO」－

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 中部鋼鉄㈱ 技術部長 村山 敬司

我が国の粗鋼生産量の約1/4を占める電炉鋼材は鉄スクラップを再生して造られる。鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板の製品に加工され、土木、建築関係に使用されている。電気アークによる超高温熔解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に生まれ変わるわけである。本報ではその生産の概要と、その特徴を紹介する。今回は特にその製造の様子をビデオで作成した。工場見学をするつもりで、電炉鋼材製品についてより理解を深めて頂きたい。

14：10-14：45 講演35分 質問時間を含む

講演

たたら 日本古来の製鉄

日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会 鉄の歴史・その技術と文化・フォーラム 天辰 正義 殿

(元JFEテックリサーチ㈱)

JFE21世紀財団は、「たたら 日本古来の製鉄」の書籍版を2004年に、DVD版(日英ハイブリッド)を2009年3月に発行した。江戸時代には、たたら法により日さきのおおつあがわむらやましてつあらいとりのず本全体で年間約1万トンの鉄を生産したといわれている。絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」(東大工学部所蔵、江戸末期長州藩の狩野派絵師作)に基づき、たたら製鉄の重要工程を抽出し、砂鉄採取(鉄穴流し)、木炭製造(大炭焼き・小炭焼き)、たたら製鉄作業(たたら炉作り・ふいご・たたら炉操業・大鍛冶・鉄鋼製品の加工)、及びたたら製鉄に使われた道具・たたら鉄から作られた道具等について紹介し、たたら製鉄の特徴と和鋼が出来るその品質のポイントを述べる。

14：45-14：50 休憩

14：50-15：50 講演60分 質問時間を含む

講演

電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題について

清水建設㈱ 生産技術本部 品質管理部 グループ長(工学博士) 角陸 純一 殿

近年、鉄筋コンクリート構造物が高層化、巨大化するとともに使用される鉄筋も高強度かつ太径になりつつある。また、配筋設計もより合理的な設計が行われるため、複雑になりつつあり、鉄筋工事がますます難しいものとなりつつある。このような鉄筋工事の現状について、ゼネコンの配筋検査の現状、各種鉄筋継手の現状、鉄筋製品の品質管理の現状、中国等東南アジアの鉄筋工事の現状を紹介しながら、最後に電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題を述べる。

15：50-16：00 休憩

16：00-17：00 講演60分 質問時間を含む

講演

鉄スクラップ需給の現状と今後の展望

㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

2008年の価格乱高下は、鉄スクラップが地産地消商品から製鋼原料として、世界商品へグローバル化した証だった。今や価格動向は国内需給のみならず世界の鉄鋼需要の動き、特に日本の場合にはアジア近隣の動きと無関係でなくなっている。

そうした中、年間3,500万t前後発生する国内市中スクラップの中長期的な展望は如何なる方向に向かうのだろうか。周辺国の自給化の動きはどうか。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後を展望する。

2009年 電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

大阪会場 プログラム

開催日	場所	開催時間：午後1時20分～5時00分	参加費：無料
2009年11月10日(火)	大阪	大阪科学技術センター 8階 大ホール	大阪市西区靱本町1-8-4 Tel 06-6443-5324

・各社製品パンフレット展示・配布 各会場

申込先：普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

〈普通鋼ホームページ <http://www.fudenkou.jp>〉

13:20-13:30

開会挨拶

共英製鋼㈱ 代表取締役社長 吉岡 龍太郎

13:30-14:10 発表40分 --- 質問時間を含む

最近の電炉鋼材の概況－電炉業の紹介ビデオ「DENRO」－

普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 共英製鋼㈱ 執行役員生産企画部長 武田 英

我が国の粗鋼生産量の約1/4を占める電炉鋼材は鉄スクラップを再生して造られる。鉄筋棒鋼、一般形鋼、H形鋼、平鋼、厚板の製品に加工され、土木、建築関係に使用されている。電気アークによる超高温溶解により、厳格なスクラップ管理の元、不純物は分解あるいは酸化物として系外に排出され、新しいクリーンな鉄に生まれ変わるわけである。本報ではその生産の概要と、その特徴を紹介する。今回は特にその製造の様子をビデオで作成した。工場見学をするつもりで、電炉鋼材製品についてより理解を深めて頂きたい。

14:10-14:45 講演35分 --- 質問時間を含む

講演

たたら 日本古来の製鉄

日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会 鉄の歴史・その技術と文化・フォーラム 天辰 正義 殿

(元JFEテクリサーチ㈱)

JFE21世紀財団は、「たたら 日本古来の製鉄」の書籍版を2004年に、DVD版(日英ハイブリッド)を2009年3月に発行した。江戸時代には、たたら法により日さきのおおつあがむむらやまさてつあらいとりのす本全体で年間約1万トンの鉄を生産したといわれている。絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」(東大工学部所蔵、江戸末期長州藩の狩野派絵師作)に基づき、たたら製鉄の重要工程を抽出し、砂鉄採取(鉄穴流し)、木炭製造(大炭焼き・小炭焼き)、たたら製鉄作業(たたら炉作り・ふいご・たたら炉操業・大鍛冶・鉄鋼製品の加工)、及びたたら製鉄に使われた道具・たたら鉄から作られた道具等について紹介し、たたら製鉄の特徴と和鋼が出来るその品質のポイントを述べる。

14:45-14:50 休憩

14:50-15:50 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題について

清水建設㈱ 生産技術本部 品質管理部 グループ長(工学博士) 角陸 純一 殿

近年、鉄筋コンクリート構造物が高層化、巨大化するとともに使用される鉄筋も高強度かつ太径になりつつある。また、配筋設計もより合理的な設計が行われるため、複雑になりつつあり、鉄筋工事がますます難しいものとなりつつある。このような鉄筋工事の現状について、ゼネコンの配筋検査の現状、各種鉄筋継手の現状、鉄筋製品の品質管理の現状、中国等東南アジアの鉄筋工事の現状を紹介しながら、最後に電炉鉄筋棒鋼の更なる活用に向けた課題を述べる。

15:50-16:00 休憩

16:00-17:00 講演60分 --- 質問時間を含む

講演

鉄スクラップ需給の現状と今後の展望

㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿

2008年の価格乱高下は、鉄スクラップが地産地消商品から製鋼原料として、世界商品へグローバル化した証だった。今や価格動向は国内需給のみならず世界の鉄鋼需要の動き、特に日本の場合にはアジア近隣の動きと無関係でなくなってきている。

そうした中、年間3,500万t前後発生する国内市中スクラップの中長期的な展望は如何なる方向に向かうのだろうか。周辺国の自給化の動きはどうか。鉄スクラップ需給の現状をマクロ的な視点から分析し、今後を展望する。

